



# 共創の場形成支援プログラム（COI-NEXT） 令和3年度公募説明会

## 共創分野POメッセージ

令和3年5月27日

プログラムオフィサー 久世 和資  
(旭化成株式会社 常務執行役員 デジタル共創本部長)





久世 和資 (くせ かずし)  
旭化成株式会社  
常務執行役員 デジタル共創本部長

## 経歴

1982年 筑波大学情報学類卒業  
1987年 筑波大学大学院工学研究科修了 (工学博士)  
1987年 日本アイ・ビー・エム株式会社入社  
2004年 同社東京基礎研究所長  
2005年 同社執行役員  
2008年 同社未来価値創造事業部長  
2009年 同社開発製造担当  
2012年 同社研究開発担当  
2017年 同社執行役員最高技術責任者  
2020年 日本IBM退任  
旭化成株式会社 執行役員 エグゼクティブフェロー 就任  
2021年 同社常務執行役員 デジタル共創本部長

## 専門分野

コンピュータ・サイエンス

# 共創分野PO・AD等 一覧

	氏名（敬称略）	所属
PO	久世 和資	旭化成株式会社 常務執行役員 デジタル共創本部長
特別AD	松田 譲	公益財団法人加藤記念バイオサイエンス振興財団 名誉理事
AD	荒金 久美	株式会社コーセー 理事
AD	大島 まり	東京大学 大学院情報学環／生産技術研究所 教授
AD	大津留 榮佐久	大阪大学 量子情報・量子生命研究センター 特任教授（産学共創リーダー）
AD	長我部 信行	株式会社日立製作所 ライフ事業統括本部CSO 兼 企画本部長
AD	岸本 喜久雄	東京工業大学 名誉教授
AD	財満 鎮明	名城大学 大学院理工学研究科 教授
AD	中川 雅人	地域共創分野プログラムオフィサー JSTシニアフェロー、株式会社デンソー フェロー(嘱託)、広島大学客員教授
AD	辻村 英雄	公益財団法人サントリー生命科学財団 理事長
AD	藤野 純一	公益財団法人地球環境戦略研究機関 都市タスクフォース プログラムディレクター
AD	美馬 のゆり	公立はこだて未来大学 システム情報科学部 教授

# 「共創の場」とは何であるか：共創分野POとして考えること

## 「人が変わる」

SDGs×ウィズ/ポストコロナに係るビジョンを共有

## 「大学が変わる」

持続的な産学官共創システムの整備・運営

## 「社会が変わる」

科学技術イノベーションによる社会システムの変革



### ① 社会をどう変えたいのか、どう変わるべきなのか

→10~20年後の未来の社会について、まずは徹底的に議論を重ね、考える

### ② 大学をどう変えたいのか、どう変わるべきか

→提案者（大学等）は①を踏まえ、組織をどう変革すべきか考える

### ③ 我々はどのように考えて行動すべきなのか

→参画機関（大学、企業、自治体、他）に所属する個人がどう行動するか考える

①から③が自然な発展形として展開していく場 = 「共創の場」

# なぜ「共創の場」が必要と考えるのか

- ・ 国内外の社会構造や経済構造の変革、その加速
- ・ 国レベルやグローバルレベルでの社会課題（SDGs）解決



VUCA（※）の時代において、1大学や1企業でこれら課題に対応し、社会を変革することはできない

そのためには大学等と企業、地方自治体や市民などの多様な組織やメンバーを巻き込んで「**共創チーム**」を作ることが重要。そこでこれからは、

- 参加者がありたい未来の社会像に共感し
- お互い対等な立場で敬意を払い
- 率直に意見交換、アイデア出しができる

環境（場）が必要

**共創分野では上記のような「共創の場」の形成を目的として公募を行い、また採択後も「共創の場」の作りこみを伴走支援します。**

※VUCAとは、  
Volatility：変動性・不安定さ、Uncertainty：不確実性・不確定さ、  
Complexity：複雑性、Ambiguity：曖昧性・不明確さの頭文字を取った言葉

# 「共創の場」に相応しい内容を作り込むために（共創分野）

## 大学や公的な研究機関への期待

- 基礎研究や先端研究に基づく、新たな知の創造（本来得意とするところ）
- 国レベルやグローバルレベルで解決すべき社会課題への積極的な取組や活動（「共創の場」を通じて新たに期待するところ）

多様な組織やメンバーを巻き込むことで実現

- **参加メンバーや関係者が一堂に会し、徹底した議論に基づく拠点ビジョンの策定**
  - ✓ 競争力の中核となるシーズ技術は重要だが、それにとらわれすぎないことも必要
  - ✓ 目指す社会像実現には、必ず他の技術も必要に（シーズ指向で考えると、できそうなこと、やりたいことに陥る可能性大）
  - ✓ 多様なステークホルダーとの協働による新たな切り口・視点を盛り込むことが可能
  - ✓ 拠点ビジョンを共有することの効果
    - プロジェクト推進の原動力となる「価値観」「困難に直面してもぶれない信念」「夢」のメンバー間での共有

# POとして掲げる3つのポイント（1/2）

共創分野POとして、プロジェクトの提案に際して留意いただきたい点を**3つ**まとめました。皆様のご提案が、私からの問いかけに直接的に応えうるものかをご確認いただければと思います。

## ① 多様性のあるメンバーでの徹底的な議論により拠点ビジョンが作られているか？

プロジェクトの参画メンバーのみならず、拠点の形成に際して影響のある人、組織、地域にもアプローチし、職種、世代、ジェンダー、経験、国籍、産・学・官、大企業・ベンチャーなどの枠を超えて、メンバーを集め、オンライン会議も活用し一堂に会し、議論を尽くした結果として、拠点ビジョンが作られているかが、最も重要です。

## ② 拠点ビジョンから、関連メンバー全員参加型で、バックキャストによりターゲットと研究開発課題が設定されているか？

拠点ビジョンを実現するための方法や仕組みを、常識や現在の研究プロジェクトにとらわれることなく、多様なメンバーによる自由な発想でアイデアを発散するアプローチをとることが求められます。それらのアイデアから、インパクトの大きさや実現性をベースに優先順位をつけ、ターゲットが設定されているかも重要です。

ターゲットを実現するために、自らの研究プロジェクトにとらわれることなく、世界の産・学・官と連携し、ターゲット実現に最適で最速の研究、技術、製品、サービス、人材、商流、ビジネスモデルなどを、躊躇することなく積極的に活用する計画になっているかがポイントとなります。

## POとして掲げる3つのポイント（2/2）

### ③ 従来の大学や公的な研究機関の伝統的なプロジェクトの進め方を打破する リーダーシップとチームワークはあるか？

前ページの2つのことを実践しようとする、伝統的な大学や公的な研究機関の研究リーダーのスコープをはるかに超えています。世界レベルの基礎研究をリードしながら、共創の場をリードするためには、たとえば人のネットワークも活用し、多様なスキルや経験のあるメンバーを集め、チームとして、プロジェクトをリードするのもオプションとして現実的です。

個人であれ、チームであれ、大きな夢と、高い志と、熱いパッションも持って、最長10年度にわたる本格型でのプロジェクト期間を想定して、スピード感を持ち、拠点をリードできるかが必須要件となります。

拠点の長であるプロジェクトリーダーには、拠点ビジョンの実現という最終ゴールを達成するために、必ず実現するという強い意志を持つ一方、当初計画に固執せず必要となる要素を拠点外からもかき集めてくる積極性や柔軟性を持つことを強く求めます。

また、このようなプロジェクトリーダーの強力なリーダーシップや積極的・柔軟なマネジメントを後押しするような、代表機関としての組織的で強力なコミットメントも重要です。



- 昨年度から共創分野のプログラムオフィサーとして、前年度の公募審査や採択拠点のハンズオン支援を通して、「**共創の場**」という本質的かつ重要な概念をどのように実現し定着させれば良いのかをアドバイザーメンバーと一緒に議論と検討を重ねてきました。今回のPOメッセージは、そうした議論や検討の結果を踏まえて作成いたしました。
- 大学や公的な研究機関が社会から変革を求められる中、「**10~20年後の未来の社会をどう変えたいのか、どう変わるべきなのか**」という考えをしっかりと持ち、その実現に向けて強い意思を持ち、自らの組織を含めた社会の変革を実践していただくことを、このプログラムでは期待しています。
- 多くの魅力ある提案をお待ちしています。